

【平成23年7月 広域緊急援助隊交通部隊 男性警察官（26歳）】

災害派遣活動で学んだこと

私は、平成23年5月28日から6月3日までの7日間、秋田県警察広域緊急援助隊交通部隊として岩手県釜石市に出動しました。

出動前は、工作中に得た情報やテレビ等で放映される映像等から、地震の大変さや被害の大きさについて十分理解しているつもりでしたが、実際、釜石市に到着して現状を目のあたりにしたとき、愕然としました。道路に打ち上げられた船、家の屋根に上がっている車、土台しか残されていない家屋等何度も何度もテレビで流された映像が、実際に現実のものとして私の目の前に広がっていたのです。



テレビの映像で見ただけでも、津波の恐ろしさを感じましたが、実際、自分の目で見るとテレビでの映像とは比べものにならず、地震や津波がいかに恐ろしいものであるか、強く実感させられました。

私が勤務することとなった釜石警察署も津波の被害にあい、庁舎を使用することが出来ず、内陸部の交番を臨時警察署として使用していました。

臨時警察署では、自らも被災したにも関わらず、警察署長をはじめとして、署員一丸となって、仕事に取り組んでいました。

私は、その姿を見て、釜石警察署員の士気の高さを感じるとともに同じ東北の警察官が大変な思いをしている中で頑張っている、自分自身も少しでも復興の手助けになれるよう全力で仕事に臨まなければならないと気を引締め、勤務に望みました。

私達、秋田部隊が担当した交差点は、釜石山田自動車専用道路片岸IC入口交差点という沿岸部の交差点でした。

勤務内容は、片岸IC入口交差点の信号機が津波により信号機が倒壊してしまっているため、午前9時から午後6時まで手信号での交通整理です。

その交差点で勤務するにあたり、まず、もし地震が発生し、津波が来た時はどこに避難誘導するのか、自分はどこに避難すればよいのか、警察官としてどう行動しなければならないのかということを考えました。

実際、交差点付近の家屋は津波により流され、何も残されていない状況で、さらにすぐ目の前には海があり、防波堤も倒壊していたので、津波が来れば遮るものではありません。近くにかろうじて4階建てのアパートが残っていましたが、このアパートも窓ガラスが割れ、とても人が住める様な状態ではありませんでした。

勤務員同士でも話し合ったところ、「津波が来たら、パニックになってしまうかもしれない。」との意見が多く、そうならないように避難場所や避難誘導について何度も確認しあいました。

実際、私たちが岩手県に滞在している時にも震度4以上の余震がありました。

私は正直、内心、もう震災から1ヶ月以上も経過しているし、そんなに大きな余震もな

いだろうと考えており、震度4以上の地震の揺れは、驚きと強い恐怖を感じるものでした。

幸い、その余震時は宿舎におり、津波も発生することはありませんでしたが、もし、これが勤務している時であれば、どう行動したのか、しっかりと避難誘導が出来たのだろうか、考えさせられるとともに、常日頃から、災害が発生した際は、どのように動くかを考え、準備しておくことが大切だと改めて実感しました。

勤務先では、家屋の倒壊等により、粉塵が舞い上がり、ヘドロ様の腐敗臭がたちこめ、ゴーグル、マスクなしでは活動出来ない状況でした。

また、勤務内容は交差点おける交通整理でしたので、気を許すと車両との接触事故など、受傷事故にもつながりかねない内容のため、常に緊張感を持ち続けなければならないなど、非常に過酷な環境でした。

しかし、絶対に事故を起こしてはならないという強い気持ちで勤務した結果、無事、事故もなく、他県警の勤務員に引き継ぐ事ができ、安堵の気持ちとともに達成感を感じる事ができました。

今回、被災地での勤務の中で一番強く感じた事は、被災した住民の方々が家族を亡くし、家をなくし、心に大きな傷を負いながらも必死に前を向き、互いに団結して復興に向け力強く前進しているということです。

少しずつでも平素の生活を取り戻したい、少しずつでも元の状況に近づきたいと必死に生きている住民の方々の姿を見て、自分自身も全力で勤務に励まなければならない、警察官として安心して暮らせる地域を作らなければならないと強く感じました。

交通事故を起こさない、犯罪の発生を抑える、被疑者を検挙する等警察官が行わなければならない仕事を一つずつ着実にやっていくことが、被災した方々が安心して普段の生活を送る事ができる地域づくりにつながるのではないかと考えています。

今回の派遣を通じて、人の強さ、人とのつながりの大切さ、そして警察官としての職責の重さをより感じる事ができました。

この経験は私の警察人生の中でも貴重な経験となることは間違いありません。

今回の経験を大切に、今後は秋田県内の治安を守り、住民の方々が安心、安全な生活を送ることが出来るよう、努力したいと考えています。